

令和8(2026)年度～令和17(2035)年度 守山市長期ビジョン2035

私の『**想**い』がかなうまち



令和17(2035)年度までの10年間における、市民と行政が課題を共有し、協働で持続可能なまちづくりを進めるための指針として、守山市長期ビジョン2035を策定しました。

関企画政策課 ☎(582)1162 📠(582)0539

2035年に向けたまちづくりの姿勢

今が時代の転換点であることを認識し、持続可能なまちづくりを進める

- 全国的に人口減少、少子高齢化が進む中でも、本市の人口は86,000人に到達するとともに、子どもから高齢者まで世代のバランスが維持され、地域ごとに新たなまちづくりが進むなど、高い都市ポテンシャルを誇っています。しかし、近年、人口の伸びは鈍化し、将来的な人口減少が避けられない状況にあるとともに、担い手不足などに伴い、地域コミュニティの維持やまちの活力低下が心配されます。
- 順調に人口が増加し、発展してきた守山市は、今、時代の転換点にあります。
- 今後10年間は、時代の転換点を迎えているという認識のもと、まちの強みを活かしながら、将来を見据えた持続可能なまちづくりを進める必要があります。

わたしたちが目指すまちの姿

守山市民憲章(普遍)

豊かな田園都市(50年先の目指すまちの姿)

将来都市像(10年後の目指すまちの姿)

私の『**想**い』がかなうまち

～守るために攻める 持続可能なまちを目指して～

守山の豊かな自然、快適で便利な暮らし、人のつながりなどに暮らしています。「ふるさと守山」をこれからも大切に守り、次のりません。近年の地域活動の担い手不足、人口増加の鈍化等、大軟に対応しつつ、「ふるさと守山」を守るためには、今が時代の転換点と捉えて、変化を恐れず攻める姿勢で挑戦することが必要です。

まちをつくる主人公は人です。
一人ひとりが夢やかなえたい想いを持つことができるような、みんなで認め、支えあうことのできるようなまちづくりに取り組むことで、「守山に住んでいて良かった」「また守山に戻ってきたい」まちを目指します。

- 市民憲章に謳われた「のどかな田園都市」と、市制施行50周年時に提環境がバランス良く調和し、市民の心身が豊かなまちをあらわす、「豊合計画では、市民一人ひとりが安らぎ落ち着ける居場所としての「ふる向け、まちづくりに取り組んできました。
- 「豊かな田園都市」という考え方は、人々の心身や社会的な「豊か(Well-Being)」という考え方を包含するものと考えています。
- これらの考えを受け継ぎ、また守山市を取り巻く社会環境の変化にす市の10年後のありたい姿として、「私の『想い』がかなうまち」を設定取り組みます。

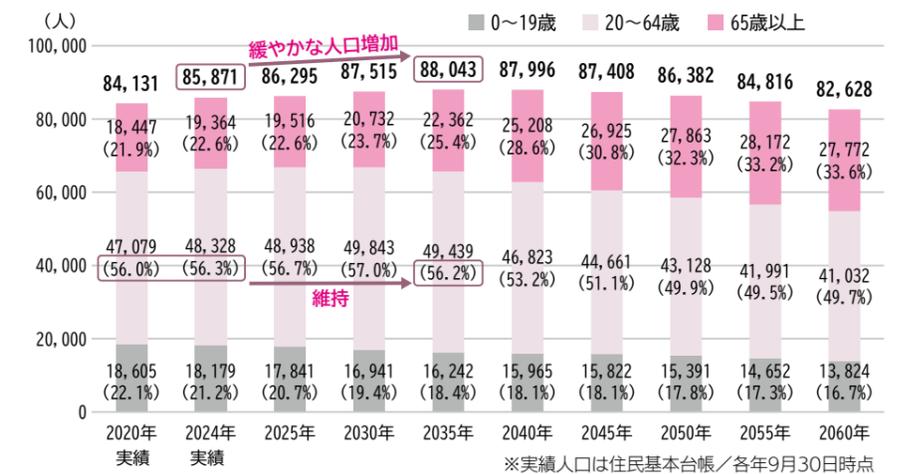
※ウェルビーイング(Well-Being)とは、世界保健機関(WHO)の憲章で提唱された広い意味での健康して社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」を指します。

惹かれて、私たちはこのまちに世代へつないでいかなければ大きく変化していく社会環境に柔軟点と捉えて、変化を恐れず攻また、その実現に向けた挑戦をみ、まちの魅力をさらに高めると実感できる持続可能な

言された、自然環境と活気ある都市かな田園都市」をベースに、第5次総さと守山」を目標に掲げ、その実現にさ」を大切にするウェルビーイング対応していくため、市民と共に目指し、その実現に向け、まちづくりに示す言葉で、「人々が肉体的にも、精神的にも、そ

人口目標

令和17(2035)年の目標人口
88,000人



- 将来にわたって守山市全体の活性化や集落の維持を図るためには、緩やかな人口増加を継続していくことが必要です。そのため、令和17年(2035年)の目標人口を88,000人と設定します。また、地域経済の安定と持続的な社会サービスの提供を実現するために、現在の人口年齢バランス(20～64歳：56%)を維持し、人口構造のバランスを確保していくことを目指します。
- 目標人口の達成のために、子どもを生み育てやすい環境整備や住宅需要を踏まえた都市計画などの制度改革など、さまざまな施策に取り組みます。

長期ビジョン策定までの取り組み



市民アンケートや、未来の守山を考えるワークショップ(全4回)、パブリックコメントで出てきた意見を反映させた長期ビジョンの案を総合計画審議会で議論。審議会として意見を取りまとめ、市長に提出しました。



総合計画審議会 会長
辻田 素子さん

市民の声を丁寧に聞き取り、市民一人ひとりの『想い』を大切にする視点で描いた、まちの未来図が「守山市長期ビジョン2035」です。これは皆さん自身の将来ビジョン。守山らしさを守る、一人ひとりの小さな挑戦と想いが重なり次の世代へと手渡されていく、そんなまちを皆さんと育てていきたいと思



ワークショップ参加者
岡本 海沙さん

野洲川の近くに住む私は守山が大好きなので、京都の大学に進学しますが自宅から通います。卒業したら守山で医療関係に従事したいと思っています。10年後の2035年も、きっと守山で暮らしているでしょう。その時、自分らしく暮らす私たちの世代が継承していける守山のまちであってほしいと思